

リスボンのアーバンアート

について

リスボンのアーバンアート

リスボンはアーバンアートではすでに名に馳せている都市で、中心部を通って歩くだけで、または歴史を感じさせる地区を横切るだけで、芸術作品に驚かされます。皆さんが楽しむことのできる見所のいくつかの、ペールをとることにしましょう。

グラサとサンタ・アボローニャの城に向かう途中

リスボンの人を惹きつけるアトラクションの一つは、リスボン一の高さを誇る、サン・ジョルジェ城です。しかし、頂上に達する前に、ロッシオから、マダレナ通りを登り、そこからサン・クリストヴァンを登ってみてください。ずらりと並ぶファサードには、アーティストのグループがファド・ヴァディオを描いています。ここは世界遺産となっている歌の発祥地、モウラーリアとアルファマ地区に近いので、これを選んだのもっともなことです。



また、城の近くを路面電車の28番線沿いに進むと、[Passeio Literário da Graça](#) **グラサ文学散歩**を行うことができます。ここは壁画を制作するためにEbano

Collective

プロジェクトが勧誘された場所で、地区に住んだポルトガルの作家を描いたり、芸術的活動や民族学的調査に結びつける方法を示しています。アーティストのグループはエイメ、レオノール・ブリルハ、ロレンツォ・ボルドナロ、マリアナ・ディアス・コウチーニョから成ります。また、描かれたポルトガルの作家はナタリア・コレイア、アンジェリナ・ヴィダル、ソフィア・デ・メロ・ブレイナー・アンデルソンで、フロルベラ・エスパンカも通りの名前になっています。



また、城の近くを路面電車の28番線沿いに進むと、**グラサ文学散歩**を行うことができます。ここは壁画を制作するためにEbano Collectiveプロジェクトが勧誘された場所で、地区に住んだポルトガルの作家を描いたり、芸術的活動や民族学的調査に結びつける方法を示しています。

グラサからサンタ・アポロニアに下って行くときには、タバコ・ガーデンを見逃さないでください。古い税関の建物の壁は今では、ピクセル・パンチョやVhilsによる作品で巨大なキャンバスとなっています。川に沿って大通りをたどると、ジョゼ・サラマーゴジョゼとピラールの肖像画があります。広場に着くと、その基礎がノーベル賞を受賞したポルトガル人作家に捧げられた広場があります。

。

ビューポイントに着く前に、市のエレベーターで

リスボンの紛れもない2つのアトラクションはエレベーターと、市の天然のビューポイントである一番高い場所です。レスタウラドール広場とサン・ペドロ・デ・アルカンタラ・

ジャルディン（庭園）を結ぶエレヴァドル・ダ・グローリアの通りと、アヴェニダ・ダ・リベルダーデからジョルダン・ド・トレル（公園）へ続く通りは、どちらも都市が介入して、さまざまなアーティストによる作品を見せているスペースです。



ボンバル侯爵広場の近く

大きな円形交差点であるボンバル侯爵公園はkm 0リスボンを指し示し、市の主要大通りの合流点でもあります。その一つ、フォンテス・ペレイラ・デ・メロ通り（サルダーニャに向かって、ピコアス地下鉄駅の近く）には、そこに大きな絵が描かれた3つの建物（Os Gêmeos、Blu、SAM3）があり、立ち止まってじっくり見ることができます。

バイシャ（ダウンタウン）とベレンの間

車または電車で、ベレンに向かって川沿いに進んでいるとき、アルカンタラに近づいたら橋の支柱の前で注意してください。Lx Factoryの建物の一つの正面にVhilsの肖像画が、その反対側にHom & Nosmによる壁画が見えます。しかし、リスボンには他にも、アーバンアートの例と提案される多くの旅行プランが見つかる多くの場所があります。訪問を計画する前に、Galeria de Arte Urbana de Lisboa で、またはプロジェクトStreet2targetのマップでリスボン・アート・ギャラリーページをご覧ください。